

東崎山だより

令和2年5月号 通刊148号

355-0044 東松山市正代755-1 電話 0493-34-3706(6555) FAX 0493-34-6555
email: semyojuji@yahoo.co.jp HP: tosaki.web.fc2.com/index.htm 携帯 090-2446-5209

この世は「常」ではなく「無常」である

私たちはありのままにものを見ていない、誤ったものの見方をしている、とお釈迦様は指摘しました。何故、誤ったものの見方をしてしまうのでしょうか。お釈迦様は、「常」という偏見があるからだと言っています。

「常」とは、常に変わらないと思い込んでいることです。

例えば、昨日があって今日が当たり前のようにやって来る。そして、今日が終わってまた明日がくる。私たちはそう思っています。それは、思い込みも間違いだということです。

決してそのように必然としているわけではなく、昨日は偶然今日になったのであって、明日は突然にやってくるものであって、必ずやってくるという保証は何も無いということです。明日のないときもあるということです。

昭和60年の夏、日本航空のジャンボ機が墜落して520人が一瞬にして亡くなりました。その時の犠牲者の一人に坂本九さんがおりました。

坂本九さんの葬儀の弔辞で、友人の永六輔さんが「昨日と今日とは偶然並んでいるだけでした。今日と明日は突然並んでいるのでした。だから明日のないときもあるのです」と述べています。

これが、「無常」という見方です。時間というのは、決して続いているわけではなく、途切れ、途切れで、偶然があるだけということです。

生きていることは「偶然」が連続していること。しかし、死が訪れることは「必然」です。でも、それがいつなのかは世は「無常」なので誰にも分からないのです。

近頃私たちは、地震や津波、天候不順による災害、そして現在蔓延している新型コロナウイルス感染、まさに異常という変化の連続、無常というべき状態を目の当たりにしています。そして、不幸にも命を落としている方がたくさんいらっしゃいます。その中には、「ええっ、あの人が」と驚くような、芸能人が含まれ、他人ごとでは無くなってきました。「明日は、我が身かも」という緊迫感が湧いてきています。

だからこそ、今このとき、生きていることがまさに偶然で、明日は無いかも知れないという気持ちで、今を、今日を過ごすことが大切だとお釈迦様は説かれているのです。



令和2年度世明寿寺護持会総会報告

新型コロナウイルス感染が心配される折ですが、3密に十分配慮した上で、4月26日(日)午前10時から、世明寿寺護持会総会が開催されました。概要を報告いたします。

- ①平成31(令和元)年度事業報告 承認
- ②平成31(令和元)年度決算報告 収入 815,291円 支出 792,954円 残金 22,337円
特別積立金の決算報告 支出 雨樋修理 542,370円 現在残高 153,144円 承認
- ③令和2年度役員 会長 大久保朗 副会長 大久保進兵・大久保証己 幹事 三浦英彦
(敬称略) 監事 大久保昌史・大久保健一(新役員) *檀家担当に変更があります
*退任役員 石川 清 *感謝状を贈呈させていただきました
- ④令和2年度事業計画(案) 承認
- ⑤令和2年度予算(案) 収入・支出 764,367円 承認
- ⑥連絡事項

- ・護持会費等の納入について 8000円 (内訳 護持会費 6000円 特別積立金 2000円)
- ・納入方法(役員集金以外の方々は、下記①~③のいずれかの方法で納入してください)

- ①現金納入(寺へ持参) *事前に連絡の上おいでください。
 ②現金書留で送金 355-0044 東松山市正代778-3 林 龍生 宛
 ③口座振込
 ア JA埼玉中央高坂支店
 口座名 「宗教法人 世明寿寺 代表役員 林 龍生」 口座番号 (普通) 2022878
 イ ゆうちょ銀行
 *ゆうちょ銀行同士の場合
 口座名 「世明寿寺護持会」 口座記号 10360 口座番号 (普通) 22224391
 *他の金融機関からゆうちょ銀行へ送金する場合
 店名 0三八(ゼロサンハチ) 店番 038 口座名「世明寿寺護持会」
 口座番号 (普通) 2222439

・納入期限 5月末日(但し、近隣檀家の役員集金分は4月末日)

■第八教区特派布教説法会・教区護持会について

当初、6月8日・坂戸市永源寺にて開催予定の特派布教会・教区護持会は、新型コロナウイルス感染防止のため、現時点では中止するあるいは延期するか検討中です。決定次第連絡致します。

■将来、お墓の継承者がいない!?(再掲) そんな時は「永代供養」も一つの方法です

様々な事情で、お墓を守っていくことができないという方がおります。例えば、お子さんやその他の継承者がいなかったり、遠方に住んでいて、墓守りやお墓参りが思うようにできないという方々です。

「永代供養」を行っている寺では、一般的に「納骨堂」や「合祀の永代供養墓」というものを作って、その中に「永代供養の仏様」を一定期間(3年くらい)合祀し、期間を超えると、壺を開けて土に返すという場合が多いと思いますが、当山世明寿寺では、「合祀の永代供養墓」という方法はとらず、原則一体毎の永代供養墓を建立していますので、一定期間が過ぎても壺から明けて土に返すことはありません。壺から開けて土に返すのは、33回忌を過ぎてから、ということで一般のお墓に安置してある遺骨に対する方法と同じになります。なお、永代供養は、檀家以外の方の申込みもお受けしています。詳しく知りたい方は、是非ご相談下さい。

■掃除用具の寄贈、ありがとうございました。

大久保匡史様からお墓の掃除用具(ほうきとちりとり)を寄贈していただきました。



■今月ことば 4月号から、『修証義(しゅしょうぎ)』連載しています 第2回 <修証義の教え-懺悔滅罪-真心をもって懺悔する章>

仏祖は、人々の迷い苦しむ姿を思い、大きな救いの門を開いて下さっています。この門に入るためには、自分が過去に犯してきた、もろもろの悪業に対して、真心を持って反省しなければなりません。我が身を恥じ、おろかさの故になせる業を洗うのだと説いています。そうすれば、仏祖のご加護があり、私たち自身も、素晴らしい生き方ができるのだと、説いています。

■今月の予定

- 寺子屋
- 坐禅会・写経会

学校の登校再開に併せて開催致します。
政府の「緊急事態宣言」の解除に併せて開始します。